

編集後記

多根総合病院 副院長 渡瀬 誠

今年1年の明るい医学トピックスは2012年のノーベル医学生理学賞が京都大学の山中伸弥教授に授与されたことであろう。皮膚細胞から、さまざまな組織に成長できる能力を持つ万能細胞であるiPS細胞を作製したことによるもので、体の細胞を人為的な操作で多能性細胞に戻すことができることを発見したことが評価された。わかりやすく言えば、一旦成熟した細胞が先祖帰りして未熟な細胞（「初期化」というらしい）に変化することはないとの定説を覆したことによる。将来の再生医療や難病治療の前途は明るくなったと言われる。様々な報道を見聞きする中で、驚かされるのは山中教授の謙虚さである。医学者として、科学者としてとても大きなことを成し遂げた偉人であるにもかかわらず、どの質問にも丁寧に、しかも正確に答えようとされているのがわかる。人格者であることはすぐ見てとれるが、その根底には、苦しんで毎日亡くなっている病気の方たちへ、1分でも1秒でも早く新しい治療法を提供したいという純粋な願いが、ヒューマニズムがあるように思える。山中教授は、きっと1つ1つの論文に対して丁寧に接し、新たなヒントをその中から導き出したのではないか。そのような謙虚さ、公平さ、フェアさが、iPS細胞の発見と作成につながったのだと思う。わかりにくい物理学賞などと違い、医学に携わる人々への素晴らしいお手本になったと思う。

そんな中、多根総合病院医学雑誌第2号が完成した。早いもので2011年3月に新病院移転から2回目のお正月を迎え、多根総合病院医学雑誌は2歳になった。新病院年齢と医学雑誌年齢は同じだ、わかりやすい。今年は13編の力作がラインナップした。創刊号にはなかったCustomer Satisfactionに関する論文や管理部からの論文などの新しいジャンルの論文も掲載されている。多根総合病院医学雑誌が新病院と共に大きく育ってくれることを祈っている。

多根総合病院医学雑誌編集委員会

委員長：丹羽 英記（院長）

副委員長：渡瀬 誠（副院長）

委員：林 美樹（副院長）／安部 嘉男（救急科）／小川 淳宏（外科）／森 琢児（外科）／濱 典男（内科）／小川 竜介（脳神経外科）／細川 幸成（泌尿器科）／奥田 佳延（脳卒中センター）／須賀 久司（整形外科）／松尾 良一（放射線科）／吉原 渡（中央検査部）／竹浦 久司（医療技術部）／川住 勇（中央検査部）／西村 洋子（看護部）

事務局：上野 梢（総務）／織田 恵美（総務）

多根総合病院医学雑誌

第2巻 第1号

平成25年3月 発行

編集兼発行 多根総合病院（代表：丹羽英記）

大阪市西区九条南1丁目12番21号

〒550-0025 電話 (06) 6581-1071(代)

FAX (06) 6585-2757

E-mail ikyoku@tane.or.jp

(担当 上野, 織田)

印刷所 シグマ紙業株式会社

大阪市西淀川区御幣島5丁目12番24号

〒555-0012 電話 (06) 6472-1321(代)